

国際化学肥料ニュース (2016年2月)

肥料業界の2016年2月動態

- * 中国税関の統計データによれば、2015年、中国が3555万トン（実物量、以下同）の肥料を輸出した。前年度より20%増の新記録を作った。
輸出の内訳は、尿素1375万トン（0.97%増）、DAP802万トン（64.3%増）、MAP274万トン（20.2%増）、硫安525万トン（26.4%増）、塩安98万トン（74%増）、NP化成肥料86万トン（10.9%増）、硫酸加里7.7万トン（23.4%増）であった。
- * 中国窒素肥料協会の統計データによれば、2015年中国の窒素肥料生産量約4670万トン（N100%換算）、前年より2.5%増加した。尿素の実生産量が3%増の6850万トンであった。また、尿素生産能力が1.13%増の8900万トン／年に達した。特に中国北西部石炭産地の尿素生産能力の増加が目立ち、2015年に255万トンも増加した。また、2016～2017年に中国北西部と華北地域に新たに1500万トンの尿素生産能力が完成する予定である。尿素生産能力の過剰が加速している。
一方、中国税関の統計によれば、2015年尿素輸出量が0.97%増の1374.80万トン、国際尿素貿易量の約30%を占め、新記録を作ったが、平均輸出価格がFOB286.5ドル／トンで、前年より2.68%も低下した。2015年尿素輸出金額39.4億ドル、2014年の40.1億ドルに及ばなかった。尿素の主な輸出先はインド595万トン、アメリカ111万トン、メキシコ75万トン、チリ67万トン、韓国64万トン、スリランカ44万トン、ベトナム41万トン、マレーシア38万トン、フィリピン34万トン、コロンビア31万トン、パキスタン31万トン、バングラディッシュ25万トン。
- * Agropages.com が公表した「2020年までの溶液栽培市場の動向と予測」報告によれば、2020年に世界の溶液栽培用肥料の市場規模が422億ドルに達し、年間平均増加率が6.3%であると予測する。
人口増加と生活レベルの向上により、高品質の農産物への需要が持続的に増加するが、水不足と農地の劣化が高品質農産物の生産量を制限する。しかし、点滴施肥及び溶液栽培を採用することによって、水と肥料成分の利用率が上がる一方、生産効率を高め、労力コストを下げ、収量と品質を高めることができる。水資源不足の地域と主に経済作物を栽培する地域では溶液栽培が加速的に普及されると推測する。
- * エジプト化学製品及び肥料輸出協会（CFEC）会長 Khaled Makarim 氏は、エジプトは2016年にアフリカに300億エジプトポンドの化学品と肥料を輸出する計画であると

述べた。2015年1～9月、天然ガス不足でエジプトの化学品と肥料輸出額が15%も減少し、43億エジプトポンドであった。

アフリカ諸国の経済発展を見込んで、エジプト化学業界は伝統のヨーロッパ市場に代って、アフリカの新興市場を目標に据えている。エジプト化学製品及び肥料輸出協会はすでにエジプト輸出基金との間にアフリカへの化学品と肥料の輸出に輸送費用の50%を補助する契約を結んだ。2016年アフリカへの輸出目標は総輸出額の20%以上にする。

* インド政府は4月まで塩化加里の輸入量を制限すると発表した。主な理由は2月中旬現在の国内在庫量が約100万トンあるほか、約100万トンも輸入契約済みである。一方、販売が不振で、2016年1月の塩化加里国内販売量が18.7万トン、2015年4月～2016年1月の販売量も210万トンで低調であった。従って、過大在庫を防ぐため、4月までに輸入量をコントロールしようとの予定である。

* カナダ Canpotex 社は塩化加里の国際価格の低迷局面を打開するため、2016年第1四半期に100万トン、第2四半期に50万トン以上の輸出量を減らすと発表した。2015年上半期の塩化加里輸出量が990万トンであったが、2016年上半期は計150万トン以上を減らし、830～840万トンとする。

これに応答するようにカナダ PotashCorp 社は3月20日から主力の Allan 工場と Lanigan 工場が4週間の減産を行い、約40万トン塩化加里を減産すると発表した。

また、ベラルーシ BPC 社も1月に加里肥料輸出量が前年同期より1/3減の51～51.5万トンであり、2～3月も引き続き輸出量を30%減らすと発表した。

ヨルダン APC 社も塩化加里生産能力150万トンの生産ライン1本を3月から4月中旬まで設備点検のために停止して、約15～18万トン塩化加里の減産を行う。

* インドからの報道によれば、インド政府農業部は2016～2017年度の塩化加里販売補助金を9300ルピー（約135ドル）／トンから400ルピーを減らし、8900ルピー／トンとする。また、農家の使用量を増やすために塩化加里の小売価格上限を16000ルピー／トンから14000～15000ルピー／トンに引き下げる。

* アメリカのシェールガス開発により、尿素生産能力が急速に増加する見通しである。2015年11月CF社の120万トン尿素工場の完成を皮切りに2019年までに大粒尿素的生産量が700万トンに達する可能性が高い。2015年アメリカ国内では大粒尿素生産量が290万トンしかなく、輸入量が804万トンに達した。主な輸入元は中東地域430万トン、中国と東南アジア130万トン、カナダ100万トン、ロシア50万トン、南米

50 万トン、ヨーロッパ 40 万トンであった。2019 年になると、国内大粒尿素生産量が 700 万トン、輸入量が 440 万トンと逆転するだろう。

大手各社の営業業績

* カナダ PotashCorp 社は 2015 年第 4 四半期及び全年度の業績を公表した。第 4 四半期の営業利益が 48%減の 3.86 億ドル、純利益が 51%減の 2.01 億ドルであった。2015 年の通年純利益が 12%減の 23 億ドルであった。営業利益の部門別では加里肥料部門が 13 億ドル、窒素肥料部門が 7.06 億ドル、りん酸肥料部門が 2.41 億ドル、海外投資収益が 1.62 億ドルであった。

* ロシアの EuroChem 社が 2015 年の業績を公表した。売上高が 11%減の 45.4 億ドル、EBITDA (減価償却前営業利益) が 4.6%増の 15.8 億ドル。窒素肥料とりん酸系肥料の販売量が 2%増の 1081 万トンであった。

アメリカの Ben-Trei 社の買収により、北米市場が増収増益で、売上高が全売上高の 12%を占めるようになった。ヨーロッパとロシアの売上高が前年度を同様で、総売上高の 38%と 20%であった。ロシア以外の独立国家共同体の売上高が 13%増、総売上高の 8%となったが、南米、主にブラジルへの販売量が減り、売上高が総売上高の 8%を占めた。

* アメリカ CF 社は 2015 年の業績を公表した。主力窒素肥料の価格下落を受け、2015 年純利益が約半減の 6.99 億ドルだけであった。2014 年に比べ、2015 年の平均販売価格はアンモニアが 24 ドル安い 599.3 ドル/トン、大粒尿素が 57 ドル安い 351.6 ドル/トン、尿素硝安液肥 (UAN) が 24.2 ドル安い 276.9 ドル/トンであった。特に 2015 年第 4 四半期の窒素化学肥料の価格急落の影響で、純利益がただの 2650 万ドルしかなかった。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

* モロッコからの報道によれば、2月2日モロッコ国王ムハンマド6世はモロッコ OCP 社が建設した Jort Lasfar りん酸肥料工場の竣工式に出席した。当該りん酸肥料工場は年間 100 万トンりん酸系肥料、45 万トンりん酸、110 万トン硫酸の生産能力を有し、製品はすべて輸出に供する。投資額約 5 億ユーロであった。なお、同じ生産能力を有する Jort Lasfar 第 2 りん酸肥料工場も 2016 年末に完成する予定である。

* 2月5日、モロッコ国王ムハンマド6世は OCP 社の Boucraa りん酸肥料プロジェクトの起工式に出席した。当該肥料プロジェクトは Boucraa りん鉱山のりん鉱石を利用し、年間 50 万トンりん酸と 100 万トンりん酸系肥料を生産する計画である。投資額

8.58 億ドル、ほかに 4.34 億ドルを投じて新たに輸出用の港を建設する。Boucraa りん鉱山はすでに完成し、年間 300 万トンりん鉱石を採掘することができる。

OCP 社は 2010 年に 10 年間にりん酸肥料とりん酸化学品の生産能力を 3 倍にするという内容の計画を発表した。その一環として、2017～2018 年にりん安(MAP と DAP)とりん酸ナトリウムの生産能力を 2012 年の 220 万トン (P2O5 100%換算、以下同)から 480 万トンにすることを目指している。

- * 2 月 24 日、ロシアのタタールスタン共和国に於いてロシア最大規模の化学肥料工場が完成した。当該肥料工場は三菱重工、双日が中国化学大手の中国化学工程集团公司 (CNCEC) と共同でロシア政府系企業から受注し、建設したものである。総建設費約 10 億ドル、地元の豊富な天然ガスを原料にアンモニア 2050 トン/日の生産能力を有する。三菱重工は設備の設計、機器調達、運転指導などの人員派遣を担当し、双日は関係者間の調整や輸送業務を手掛けて、現地工事は CNCEC が行った。
- * ヨルダン新聞 *Jordan Times* の報道によれば、ヨルダン国営 JPMC 社が中国重慶五鉱及び機械輸入輸出公司 (CQMM) と共同でヨルダンの Al-Aqabah 市にりん酸とりん酸肥料工場を建設する計画を政府に提出した。当該工場の総投資額約 14 億ドル、JPMC が毎年 150～200 万トンりん鉱石を供給し、50 万トンのりん酸を生産する。生産するりん酸がりん安やその他のりん酸塩製品の原料とする。工場の建設時期が未定である。

その他

- * カナダ PotashCorp 社は Piccadilly 加里鉱山の開発を無期限中止することを発表した。理由は塩化加里の販売不振で、生産過剰に陥った。ニューブランズウィック州 Piccadilly にあるこの加里鉱山は設計生産能力 200 万トン/年で、2013 年から開発が始まったが、資金と労力を生産コストの安いサスカチュワン州にある加里鉱山に集中するため、開発途中で中止することになった。